

歴史的に維持されてきた牧の景観保全、湿地保全

50. 荒川高原牧場【岩手県遠野市】

範	囲	遠野市北部、「早池峰山」のふもと標高 700m ~ 1,000m に広がる大草原	
所	在	地 岩手県遠野市附馬牛町	
生	物	地 理 区 分 コナラ林(東日本)	
環	境	要 素 草地( ), 池沼・湿地	
自然条件	地 形	遠野市は、岩手県を縦断する北上高地の中南部に位置し、標高 1,917mの早池峰山を最高峰に標高 700 ~ 1,000mの高原群が周囲を取り囲み、市域の中央部にある遠野盆地に市街地を形成している。	
	植生・生物等	本市では、山麓はコナラ群落の中に植林地・耕作地植生の畑地雑草群落や牧草地が混在して分布している。また、丘陵・山間部ではオオタカなどの大型猛禽類、ニホンカモシカなどの大型ほ乳類が確認されるなど豊かな生態系が見られる。	
		 <p>撮影時期： 牧場の景観</p>	
社会条件	人口(市町村)	29,338人(農家率 34.1%、副業的兼業農家が多) 遠野市のデータ(H22年)	
	土 地 利 用	市総面積の 8.7%が田畑、84.1%が山林である。 遠野市のデータ(H22年) 対象地域は現在、和牛の放牧が主体となっているものの、馬の放牧も行われており、遠野の馬事文化の保存と継承に貢献している。	
	歴史・文化	荒川高原牧場は、中世以来の長期に渡る放牧の歴史を持ち、市内最大の規模と放牧種の多さを誇る牧場である。牧場内には「山神」の石碑があり、山麓には多くの信仰を集めた「荒川駒形神社」が存在するなど、遠野の生業と自然、歴史が一体となって生まれた独自の文化的景観を有する。	
法指定、行政による評価の状況	自然環境・景観保全や国土保全に関わる地域指定等	保安林 岩手県自然環境保全地域	
	すぐれた自然、景観、伝統文化などとしての選定	(財)古都保存財団「美しい日本の歴史的風土 準 100 選」に選定(H19) 文科省「重要文化的景観」に選定(H20)	

取組主体	タイプ	行政:行政による取組又は行政の支援で成り立っている取組		
	主な主体	名称	概要	
		(社)遠野市畜産振興公社	・馬の里事業:育成調教、ホースパーク、乗用馬育成 ・放牧事業:高清水や荒川など7つの牧場の管理運営	
経緯	中世以来、北上高地の厳しい自然環境の下に生息していた天然芝草を地域住民が採草地として利用し始め、やがて準平原のなだらかな地形、夏場の冷涼な気候に着目して放牧をするようになり、市内有数の放牧地として発展し、馬産地遠野と呼ばれる程に成長した遠野馬産の主要放牧地となった。近代には北上山系開発地域となって草地の改良、放牧地の拡張、道路整備などが行われ、牧野組合の直接的管理から農業共同組合との共同管理、畜産振興公社の一括管理へと規模の拡大に伴って管理体制も変化した。			
支援措置	該当なし			
取組の目的・目標	育成調教や繁殖改良、ふれあい事業などを幅広く手掛け、馬事文化継承と馬を主体とした地域活性化を目指す。			
取組分野内容	農林業を通じた里山や草地の利用(管理)の維持・活性化	農業協同組合の合併に伴い遠野市が所有する牧場部分を含め、管理団体である畜産振興公社と共に草地改良等の取り組みにより牧場の活性化と畜産振興を検討している。		
	バイオマスなど新たな資源としての利用	【対象となる資源】 該当なし		
	環境教育や自然体験、エコツアーリズムの場としての利用	自然観察会	該当なし	
		環境教育・学習活動		
		里地里山体験・環境保全		
		農林業体験活動		
		エコツアー		
その他				
野生動植物やその生息地の保全・管理	岩手県自然環境保全地域を定めて湿生植物の保全を図っている。防風柵を設けて森林再生を援助している。			
地域の良好な景観の保全・修復	所有者及び管理者で協議し、保存計画を策定。任意協定を締結し景観の保全と牧場としての機能修復に取り組んでいる。			
里地里山の伝統的な生活文化の知恵や技術の継承	対象	生活行事	【文化財指定】	
		資源利用技術		
		その他		
		該当なし		
連携・協働				



撮影時期：H19年 6月  
 現在では見る機会が少なくなった馬の放牧風景。早池峰山  
 や北上山系の山並みが見渡せる360度のパノラマ景観

撮影時期：H19年 5月  
 牧場に建設された「山神」の石碑

景観としての  
 利用・評価

風景探勝や撮影の来訪者が多い  
 自然公園や景観保全のための地域指定がある  
 景観関連調査(文化的景観等)の対象地となっている  
 かつて東映映画のロケ地になったことがある

取組の特徴

厳しい自然環境のもとに発展した放牧地を利用・管理、景観を保全しつつ地域主要産業の振興を図っている。  
 北上高地の厳しい自然環境の下、天然芝草を地域住民が採草地として利用し始め、やがてその地形、気候に着目した市内有数の放牧地として発展。近代は管理体制も変化したが、今日では、自然環境保全地域を定めて湿生植物の保全を図るとともに、所有者及び管理者で協議し、景観の保全と牧場としての機能修復に取り組んでいる。

【参照資料】

遠野市 HP (<http://www.city.tono.iwate.jp/index.cfm/1.html>)

ふれあい牧場協議会 HP (<http://www.fureaibokujyo.jp/index.htm>)

遠野テレビ HP (2007年6月1日、9月3日放送分)